

理研会報

発行
印教研理科研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町948-1

10・11

印教研理科研究部集案

講師と△△頁の声

小学校 講評

飯田 和宏 先生

今年度も、各部会から新しい理科教育の方向を見据えた提案をしていただきました。各部会の提案を振り返りながら、そのポイントの一端にふれてみたいと思います。

「生命を感じる」「季節を感じる」「生物同士のかかわりを考える」という視点を大切にした三部会と一部会の提案。どのような生命との出会いの場を設定し、どのような生物との相互関係を作ったか、といった良いか、その方向性を示してくれたように思います。また、主体的な活動を促すために「自分が」という思いを常に持たせるように努力していることも素晴らしいことだと思います。

コンピュータの有効活用を目の向けた二部会の提案。理科学習は、直接自然に働きかけながら科学的な見方や考え方を培っていくということが基本ですが、学習活

する理科」と言われています。新しい理科学習の方向を見据えた各部会の取り組みが、今後益々充実発展していくことを願っています。

最後に、最近「総合的な学習」との関係から、理科学習を培うべき知識、能力が曖昧になり、焦点のぼやけた学習指導になっているのではないかという声を聞きます。子どもたちの興味関心を大切にしつつも基礎・基本をしっかり把握した理科学習の実践を願っています。

中学校 講評

加藤 弘明 先生

本年度も五本の提案があり、それぞれ熱の入った討論や情報提供等、活発な協議が展開された。理科教育への熱い思いを反映するものであり、まずは理科研究部の伝統が脈々と受け継がれていることをたいへん心強く思う。各部会毎の詳細な講評は済んでいるので、ここでは研究の根幹に関わる研究主題について述べる。

一、研究主題の表現に工夫を研究主題はそれ自体で研究の内容を語るものでありたい。何を指しているのか、どの領域内容で研究を進めるのかという二つの要素を入れた表現でありたい。

今回、それが明確であったのは一部会と五部会であった。二部会と三部会は領域・内容ははっきりしているものの、ねらい（意図・ポリシー）が不明確である。四部

会はその逆で、ねらいは一応はつきりしているが、対象領域が定まっていなかった。研究主題について、今一度検討してみようか。

二、研究主題の絞りこみ

『生きる力』を研究主題のキーワードにした部会が二つあった。生きる力の育成は、指導要領改訂の基本理念であり、それを研究対象にするのは悪くはないものがあるにすぎないだろうか。

生きる力とは自己教育や自己学習能力、問題解決の能力、探求心、科学的思考力、情報処理能力、表現力、科学認識、実験の基礎技術等々、大小あまりに多くを包含する。その中の一つ一つがテーマになり得るものばかりで、それらをからけて論じても、研究主題と実践の距離は縮まらない。

研究主題と実践の距離が近いほど説得性と有用性（授業へのよい反映）が増す。

かつて先輩達は、「授業における子供の仮説設定の能力を高める」とか「徹底したグラフ化による科学的思考力を高める」とか絞った研究主題で実践を積み上げてきた。この実践をヒトに、確かな授業改善をつなげる研究とすべく、会員全体で思を新たにしたに違いない。

△△ 員

の 声

小学校分科会より

新山小 宮島 孝仁先生

六年ぶりに理科研究部集案に参加させて頂きました。六年前とは日程・研究発表の仕方・研究の内容が大きく様変わりしていたので新鮮な気持ちで研究発表を聞かせて頂きました。

昨年度から、午後のみの日程となつたことで、一部会並りの持ち時間が三十分となりました。このため、ポイントをおさえた研究発表となり、質疑や意見も端的でスピード感のある研究協議となつたと感じられます。しかし、二次的な質疑・意見が出されることが少なくなつたことが残念です。

発表の仕方でも大きく変わったと感じた点は、視聴覚機器を効果的に使うようになったことです。短時間でわかりやすい発表をするために、どの部会もビデオプロジェクトを使い、会員の目と耳に訴える発表となりました。配布された印刷物のページ数も減り、発表者のこの研究をわかってもらいたいという願望が感じられました。

新学習指導要領の実施に向けて研究の内容も変わってきました。キーワードは「自然体験・実体験」「地域素材」です。そして、専門的でマニアックなものから、誰にでも広く実践のできる報告に方向性が変わってきたように感じました。

また、三部会の『選択理科のあり方』を考えると、前任教で選択の授業を自分自身が受け持った時の反省として、「たいしたことのできなかった」というのがあったので、次回、選択授業を受け持つ機会があった時には、この研究レポートを参考にさせて頂き、もう少し充実した授業を行うことができそうです。

助言者の加藤先生もおっしゃっていましたが、生徒達に驚きや感動を与えられるような、観察・実験を多く取り入れて、これから授業を展開していきたいと改めて思いました。

